

学校だより

令和6年(2024年)10月1日

NO. 6



「進んで学ぶ子ども」「思いやりのある子ども」「がんばる子ども」の育成

～あいさつをしよう・やくそくをまもろう・おもいやりをもとう～

泉佐野市立第三小学校

『実行に移す勇氣』とボランティア活動



秋の訪れとともに、子どもたちも学習や運動に精一杯取り組める気候になりました。

さて、9月末に福祉体験学習の日をもうけ、低学年はボッチャ体験・中学年はアイマスク体験・高学年はボランティア活動をされている方からの、聞き取り学習を行いました。

聞き取り学習では、毎朝の見守りをしてくださっている民生委員さん、市内各校園で読み聞かせをされている主任児童委員さん、手話を通してボランティア活動をされている方、おもちゃを無償で引き受けて修理をされている方、南京玉すだれで各施設を慰問されている方にお越しいただき、子どもたちがインタビューをさせていただきました。

以下はその時の会話の一部です。



問 「毎朝の見守り活動を始めた、きっかけは何ですか？」

答 「昔は、南海電車が地面を走っていたけど、高架になってからは交差点での車同士の衝突事故が増えました。もし、子どもたちが巻き込まれたら大変だと思って、毎朝、立つことにしました。最初は1人で始めたんですけど、そのうちに『私も手伝うよ。』と言ってくれる人が増え、今は何人かで立っているんですよ。」

問 「ボランティアをされていて、楽しかったり、うれしかったりしたことは何ですか？」

答 「自分のやっていることが、人の役に立っているな、と思えることです。月に数回ですが、何人かで町内を回って、道路に落ちているゴミを拾ったりもしています。そうすることで、私たちの社会がよくなるといいな、と思っています。これはお金では得られない気持ちです。道行く人から『ありがとうございます。』と言ってもらえた時もうれしいです。」

子どもたちと一緒に話をうかがうにつれ、清らかさにあふれる言葉の数々に頭が下がる思いがしました。最後に子どもたちに向けて話されたことは、「落ちているゴミを拾うなど、身近なことから始めることもボランティアです。また、困っている人を見かけたら、その人が何を必要としているのかをその人の心に寄り添って考え、ささいなことでも自分のできることを実行に移すことです。心に思ったことは勇氣を出して、実行してみると良いと思いますよ。」でした。

学習の後、「ボランティアをやってみたいな、と思う人いますか？」との担任の先生からの問いかけに、目を輝かせて、多くの子どもたちが手を挙げていました。

学校からの依頼に対し、市の社会福祉協議会の皆様のご協力くださり、本当に貴重な学習の機会を子どもたちに与えていただきましたことを、心より感謝いたします。

校長 泉谷 一



※お子様の様子や情報は HP に掲載中です。

泉佐野市立第三小学校

検索 🔍